海燕社の小さな映画会 2017

2017年8月26日（土）上映17:30（開場17:00）

場　所：沖縄県立博物館・美術館　博物館講座室
料　金：1,000円　※定員に達し次第、締切らせて頂きます
電話予約：098-850-8485（カイエンシャ）メール予約　mail@kaiensha.jp

平成22年度 文化庁映画賞 文化記録映画優秀賞
2010年度 日本映画ペンクラブ 文化映画部門 第1位
第35回 日本カトリック映画賞
第84回 キネマ旬報ベスト・テン 文化映画 第2位
第28回 日本映画復興賞 日本映画復興 奨励賞
第16回 平和・協同ジャーナリスト基金賞 荒井なみ子賞

かつて学校で夢をつぶされた彼らが、再びその夢を語ることができた場所・・・それは〈学校〉だった―

夜間定時制高校―

そこはいま働く若者たちの学びの場、そして小・中学校で不登校、高校を中退した若者たちの再出発の場となっています。

映画の舞台は、1学年1クラス、全校生徒120人足らずの埼玉県立浦和商業高校定時制のあるクラス。派手なメイクで身を固め教師に暴言を吐く生徒、家庭内暴力が原因で登校できなくなった生徒、明るい笑顔が魅力のある生徒は自傷行為を繰り返し・・・

彼らのやわらかな心は、家庭や社会の歪みに傷ついていました。そんな若者たちが、大家族のような〈学校＝居場所〉の中で悩み、ぶつかり、支えあい過ごした日々と、その先に見えた希望。

2002年の入学から2006年の卒業までの4年間、そしてその後へと、生徒一人ひとりに寄り添った貴重な映像が、テレビ放映を経て、ここにドキュメンタリー映画として誕生しました。

人との絆が、人を育てる。いまを悩み、懸命に生きるすべての人へ、この作品を捧げます。

月あかりの下で

ある定時制高校の記憶

定時制とは？

戦後の混乱から復興に向けて社会が歩みだした昭和二十三年、「すべて国民は、ひとしく、その能力に応ずる教育を受ける機会を与えられなければならない」（新憲法第26条、教育基本法3条／当時）という教育の機会均等の精神に基づき、様々な理由で全日制の高等学校に進めない青少年に対し、高等学校の教育を受ける機会を与えるために誕生した定時制通信制課程。近年では、不登校生徒の増加や不況などからも入学希望者が増加する一方で、急速に進む少子高齢化はじめ、さまざまな社会環境や産業構造の変化により、そのニーズも多様化しているとし、単位制等への統廃合が進められ、縮小傾向にあります。

（映画の舞台、浦和商業定時制課程も2008年3月に閉校となりました。）

演出：太田直子〈プロフィール〉

1964年生まれ。東京都出身。高校非常勤講師、書籍編集などの仕事を経て映像の仕事に携わる。
2002年4月から2008年3月まで浦和商業高校定時制の撮影に通い、この映像をもとに2007年夏日本テレビ『テージセー～1461日の記憶～』を演出した。

2010／ドキュメンタリー映画／115分／DV-CAM／4:3／日本
演出・撮影・編集：太田直子／プロデューサー：田野稔／映像協力：日本テレビ／製作著作：グループ現代